第三章

ケーススタディ

事前復興の取組のケーススタディ

ケーススタディⅠ（平成 25 年度：岡崎市）

今回、実際に事前復興の取組をケーススタディとして行いながら、どのような視点で取り組みを進めたら良いのか、どのような情報を発信したら良いのか、どのように住民と議論の場を作り、地域主導での検討に進むのか等を把握・検討し、取組を実施する際に留意しておくべき事項などを整理した。

そして、このケーススタディの実施概要は、できるだけ詳細に掲載することで、今後、各市町村で事前復興の取組を促進する際の参考となるよう取りまとめた。

ケーススタディⅡ（平成 26 年度：安城市）

平成 25 年度に岡崎市で実施した模擬訓練のプログラムをベースに、安城市内で実施した結果を取りまとめた。

ケーススタディⅠ

（１）ケーススタディの実施概要

１．実施概要

事前復興の取組は「地区課題の改善について、地域住民の方々と協働検討を進める取組。ひいては、被災後の震災復興都市計画のたたき台（素案）に繋がっていく様々な取組」と位置付けており、そして地域住民との協働については P8 の事前復興計画の取組の体系のとおり、ステップ０から３といった段階的な進め方も提示している。

そこで今回のケーススタディでは、地域住民が話し合いを行うきっかけになるとして「事前復興まちづくり体験（模擬訓練）」と称し、地域住民と行政職員が協働してまちの災害リスクを把握し、あらかじめ被災後のまちづくりを考える、というプログラムを考え実施した。

具体的には、地震による地域の危険度を示すデータやまち歩きにより地域の災害リスクを知った上で、仮に被災した場合の復興まちづくりを考えることを行った。

日　時	第１回　平成 25 年 11 月 24 日（日）　午後１時から 第２回　平成 25 年 12 月 14 日（土）　午後１時から
実施地区 ※モデル地区	岡崎市広幡（ひろはた）地区 （広幡地区内の元能見（もとのみ）北、元能見中、元能見南、福寿（ふくじゅ）、松本の５町内）
地区概況	老朽化した木造住宅が密集している地区を含み、細街路が多く公園等のオープンスペースが少ない地区。また、地域のまちづくり活動にも積極的に取り組んでいる地区。
参加者 ※事前に選定	地域住民（地元役員、子供会役員、消防団ほか） 岡崎市職員、愛知県職員、コンサルタント 合計５０名程度
会　場	広幡学区市民ホーム

＜模擬訓練の流れ＞

第１回　平成 25 年 11 月 24 日（日）
　地域住民に地震による災害リスクを説明するとともに、住民と一緒にまちを歩いて、危険な場所などを把握する。

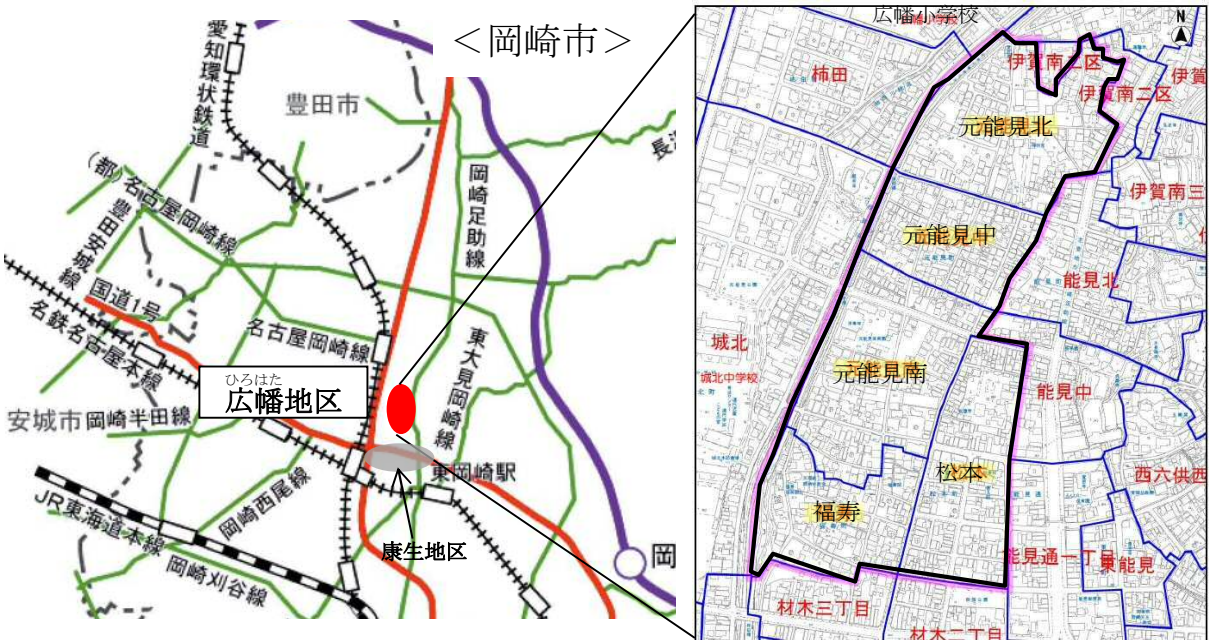
第２回　平成 25 年 12 月 14 日（土）
　第１回で把握したまちの災害リスクやまちあるきから、まちの将来像など事前復興まちづくりについて考える。

その後の展開

事前に（予防的に）できることの検討

計画の具体化、地区の絞り込み、施策の実施など

２．実施地区



広幡地区拡大

（２）ケーススタディの内容と実施にあたっての留意事項

ここでは､今回実施した取組の詳細なプログラムを記述するとともに、実施にあたって留意した点なども合わせて解説している。

なお、プログラムでは、参加者と行政職員が地区ごとのグループに分かれ、各々の地区についてまちの課題や復興まちづくりについて討論したり図面を作っていくワークショップ方式で行った。

１．（第１回まち歩き）プログラム

事前復興まちづくり体験
第１回　まち歩き
プログラム

場所：岡崎市広幡学区市民ホーム
日時：平成 25 年 11 月 24 日（日）PM1:00～3:30

【プログラムの時間割】

１．ガイダンス	(20 分)	PM1:00 ～ 1:20
２．まち歩き	(60 分)	PM1:20 ～ 2:20
休憩	(10 分)	
３．まち歩きの結果のグループ討論	(40 分)	PM2:30 ～ 3:10
４．代表グループによる発表	(10 分)	PM3:10 ～ 3:20
５．本日のまとめ、次回の予定	(10 分)	PM3:20 ～ 3:30
６．閉会・アンケートの記入	(10 分)	PM3:30 ～
解散		

ポイント＜開催前の主な検討事項＞

①訓練参加者　幅広い年齢層や職業、地域代表者、男女共同参画など
班分けの状況に応じて行政職員の訓練参加も検討
②訓練内容　参加者相互の交流が行われるように、今回はまち歩きを実施
③開催日時　参加者の年齢、職業等に配慮した日時や時間配分
④開催会場　各地区からの距離や参加人数、机の配置等に応じた広さ
⑤役割分担（運営管理、司会、等）
今回は各グループ毎にファシリテーターを配置
⑥参加者の防災意識やコミュニティの熟度に応じた進行方法の決定
参加者全体でのガイダンス進行や各グループ毎の討論

【各プログラムの進め方】

１．ガイダンス　（20 分）　PM1:00 ～ 1:20

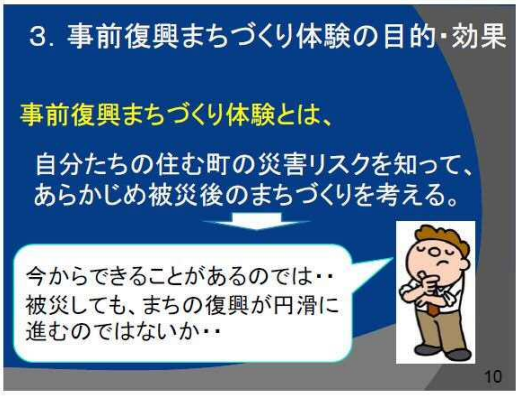
1）あいさつ(5 分)
　○主催者あいさつ
　○地域代表あいさつ

ポイント＜ガイダンスその１＞
①ガイダンスは、各グループ毎でなく参加者全体で実施
②地域住民の主体性を意識してもらうため、地域代表にも挨拶を依頼

2）事前復興まちづくり体験の目的、プログラムの説明など(15 分)

①過去の主な地震の被害
②愛知県、市の被害予測
③事前復興まちづくり体験の目的と効果
④対象地区の都市災害リスク
⑤本日のプログラム、本日の目的、成果
⑥まちの課題、魅力の発見例
⑦まち歩き結果図の例
⑧ワークショップのルール

ポイント＜ガイダンスその２＞
①資料配布の上、ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄで説明
②図、写真、表などは平易な表現に努める
③目的、成果などを明確に説明
④最後に全体の流れを説明



２．まち歩き　　（60 分）　PM1:20 ～ 2:20

1）自己紹介(5 分)
名前とひとこと

ポイント＜まち歩きその１＞
①ここからは、各グループ毎に分かれて進行
②はじめはファシリテーターが進行役

2）まち歩きに必要な下記の内容を全員で確認します(5 分)
○都市災害のリスク
○まち歩きを行う地区の範囲
○まち歩きルートの確認
○持ち物（筆記具、その他
　　私物・貴重品など）
○発見内容の確認

ポイント＜まち歩きその２＞
①まち歩きに出掛ける前に、延焼危険度など地区の災害リスクを
　各グループ毎に再確認
②範囲やルートの確認
　今回は地域で作成した防災マップを使用
③何を発見するのか具体例の確認
・危険な所　狭い道、ブロック塀等
・役立つもの　公園、広場等
・まちの魅力　社寺、景観等
・その他　　古い空き家、空き地等

3) まち歩きに出発します(50 分)

〇まち歩きの方法

〇まち歩きを行う際の注意事項

ポイント<まち歩きその３>

①集団での行動や交通安全を注意喚起
②傷害保険の加入
③会場から距離がある場合は、車移動も検討
④定刻までに会場に戻れるようにファシリテーターが時間管理

まち歩きルート図

休憩　(10 分) PM2:20 ～ 2:30

３．まち歩き結果のグループ討論　　（40 分）PM2:30 ～ 3:10

1)役割分担(5 分)

○グループ討論を行う前に、役割分担を話し合う。

ポイント＜グループ討論その１＞

①自主性を高めるために参加者へ役割分担する
②リーダーは公平な発言機会や時間配分等も考慮
③役割分担が円滑に進まない場合は、職員の進行など臨機に対処

2)「まち歩き結果図」の作成(25 分)

○はじめに、各自がまち歩きで気づいたことを**ふせん紙に記入**してください。

○ふせん紙の記入は、下記の色分けに従ってください。

・（ピンク色）危険と思われるところ
・（青色）被災時に役立つと思われるところ
・（緑色）まちの魅力
・（黄色）その他気づいた点

○記入したふせん紙は、**図面の該当箇所付近に貼付**してください。

ポイント＜グループ討論その２＞

①まち歩きで気づいた点をふせん紙に記入し白地図に貼付け、討論する。
　討論から始めると特定の人だけの発言になるなど意見の集約が難しくなる。
②記入する白地図は都市計画基本図でも良いが、住宅地図※など参加者に分かりやすいものを用いると議論もスムーズに進む。
　※地図の複製利用手続きなどは要確認
③ふせん紙記入は、必ず参加者全員が行う。
　ファシリテーターは原則記入しない。
④参考資料として、都市計画マスタープランや航空写真、防災マップなど

○ふせん紙の貼り付けがひと通り終わりましたら、「まち歩き結果図」の作成に向け、**グループ討論を開始**してください。
（撮影した写真や図面上の位置なども含め、ふせん内容の確認）

ポイント＜グループ討論その３＞
①デジタルカメラの液晶画面で、撮影した写真を確認しながら意見を出し合った。
②休憩時間に写真を印刷する方法もあるが、出力に時間がかかる。

○このとき同じ意見がある場合は、それぞれ分類ごとに集約・整理して、「まち歩き結果図」を仕上げてください。

図面の作成は、次ページの【まち歩き結果図のイメージ】参照

分類の一例
「建物の立地状況」　、　「避難経路や避難場所の有無」
「消火活動や救急活動」　、「まちの魅力」　など

ポイント＜グループ討論その４＞
①図面の整理・作成は、参加者の自主性に委ねる。
②ファシリテーターはあくまでもサポートのみ
③全体の運営管理者は、各グループの進行状況に応じてスタッフを増やすなどの補助も行う。

【まち歩き結果図のイメージ】

3）まとめ（10 分）

○リーダーは、とりまとめに向かうよう誘導してください。

○本日の議論、結果を復習

４．代表グループによる発表　（10 分）PM3:10 ～ 3:20

○代表グループにまち歩きの結果を発表していただきます。
(時間に応じて、1～2 グループ程度)

・リーダーが発表（発表内容は下記事項を参考に）

①地区名

②まち歩き結果図の概要

（ピンク色）危険と思われるところ
（青色）被災時に役立つと思われるところ
（緑色）まちの魅力
（黄色）その他気づいた点

③写真（パソコンとプロジェクタ使用）

・他のメンバーも、補足説明などがあれば発言してください。
・お祭りなど地区で取り組んでいる催し物も、まちの魅力としてアピールすることもできます。

ポイント＜発表＞

①グループ発表は、参加意識の向上のため訓練毎に行うことが望ましい。
②今回は時間配分の関係で代表グループのみ発表
　選定は、当日の各グループの進捗を見ながら適宜判断する。
③発表の際は、まち歩き結果図と併せて写真をスクリーンに投影するなど聞き手にわかりやすいように配慮する。
④また発表者以外にも班員全員で補足説明等を行うことで、連帯感の形成やグループでの成果であることの意識付けなども行うことができる。

５．本日のまとめ、次回の予定　（10 分）PM3:20 ～ 3:30

〇終わりのあいさつ
〇次回予定の案内

６．閉会・アンケートの記入　（10 分）PM3:30 ～ 解散

ポイント＜アンケート＞
①当日の振り返りと今後の参考とするため、アンケートを行った。
②設問数は、少なく、設問は簡単なものとする。

２．（第２回復興まちづくりの提案）プログラム

事前復興まちづくり体験
第 2 回　復興まちづくりの提案
プログラム

場所：岡崎市広幡学区市民ホーム
日時：平成 25 年 12 月 14 日(土)PM1:00～3:30

【プログラムの時間割】

１．ガイダンス	(20 分)	PM1:00 ～ 1:20
２．まちの課題のグループ討論 （まち歩き結果図の完成）	(20 分)	PM1:20 ～ 1:40
３．復興まちづくりの提案 （復興まちづくり提案図の作成）	(40 分)	PM1:40 ～ 2:20
休 憩	(10 分)	
４．グループ発表	(50 分)	PM2:30 ～ 3:20
５．閉会のあいさつ	(10 分)	PM3:20 ～ 3:30
６．閉会、アンケート	(10 分)	PM3:30 ～
解 散		

【各プログラムの進め方】

１．ガイダンス　(20 分)　PM1:00 ～ 1:20

1）あいさつ
　〇主催者あいさつ

ポイント<ガイダンス>
前回不参加の方のために前回内容も概要説明

2）事前復興まちづくり体験の目的、プログラムの説明など(15 分)
スクリーンで、以下を説明。

①過去の主な地震の被害
②事前復興まちづくり体験の目的と効果
③対象地区の都市災害リスク
}1 回目内容の再確認

④本日のプログラム、目的
⑤復興まちづくりの例
⑥復興まちづくり提案図の例
⑦ワークショップのルール

２．まちの課題のグループ討論　（20 分）PM1:20 ～ 1:40
（まち歩き結果図の完成）

1)役割分担および都市災害リスクの再確認（5 分）
○自己紹介
名前とひとこと

ポイント＜グループ討論その１＞
①ここからは、各グループ毎に分かれて進行
②あらためて自己紹介を行う

○役割分担は、前回の設定から変更していただいても構いません。

○地区の都市災害リスクを再確認してください。

ポイント＜グループ討論その２＞
延焼危険度など地区の都市災害リスクは前回説明事項であるが、前回開催からの時間の経過も考えて、ファシリテーターの説明により再度確認することとした。

対象地区の延焼危険度

2) まち歩き結果図の完成（15 分）

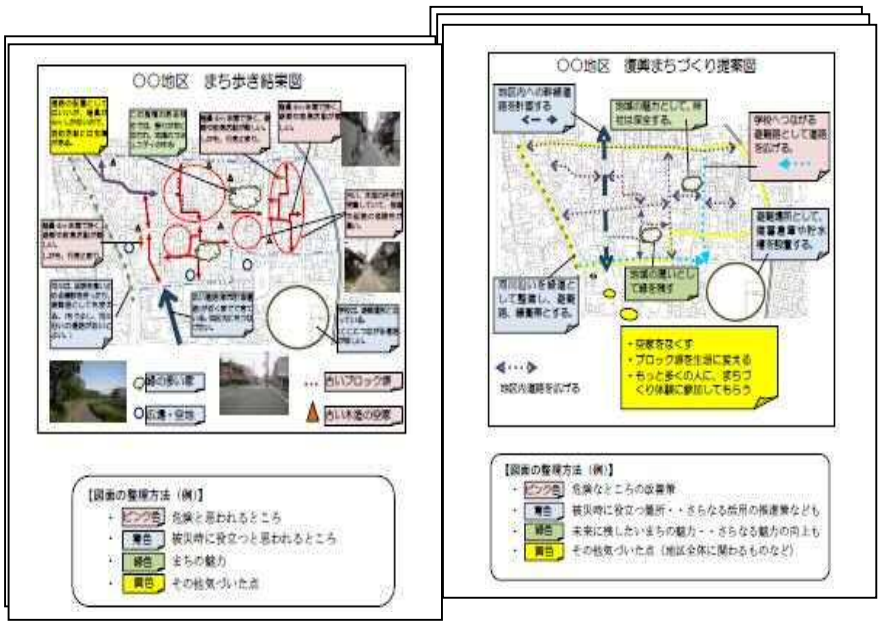
①前回作成したまち歩き結果図に**写真を貼り付け**ます。
②写真を貼りながら、ふせん紙の課題等について再確認します。
③新たな意見、その他気づいた点を図面に追加します。
④地震時に危険な個所、役立つ箇所等を追加します。
⑤**「まち歩き結果図」を完成させます。**

図面の作成は、後に示す【まち歩き結果図のイメージ】参照

ポイント＜グループ討論その３＞

①前回撮影した写真を適切な大きさに印刷しておく。
②撮影した写真を全て印刷すると、枚数によっては班員による選別作業に時間を要し、その後の意見集約が困難となる。

③今回のプログラム資料においては、まち歩き結果図と復興まちづくり提案図のイメージをＡ４見開きで一見して対比できるように印刷した。



３．復興まちづくりの提案　（40 分）PM1:40 ～ 2:20
（復興まちづくり提案図の作成）

1)話し合いながら「復興まちづくり提案図」を作成(30 分)
以下は進め方の例です。

①地区のまち歩き結果図から**代表的な課題や魅力**を全員で確認。
②上記①で確認した課題や魅力に対して、どのような改善策、活用策等があるか、各自が**ふせん紙に書き込み**ます。
③ふせん紙を**図面の対象箇所に貼り付け**、同様な意見などを分類します。
④復興まちづくり提案図の作成
分類されたふせん紙ごとに話し合いを始め、**マジックなどを利用して、図面に整理**していきます。

「復興まちづくり提案図」とは・・・・
被災後、どのようなまちづくりをするのか、図に表すものです。
※「復興まちづくり提案図」は、今回の事前復興まちづくり体験の参加者による成果となります。

図面の作成は、後に示す【復興まちづくり提案図のイメージ】参照

ワンポイント＜復興まちづくりの提案その１＞
①ふせん紙は分類毎に色分け（改善策や活用策、魅力の向上など）
②その他参考資料として、防災に関したまちづくりの事例集等を用意した

＜事例集等＞

ポケットパーク

備蓄倉庫

整備前　→

整備後

2）まとめ（10 分）

○リーダーは、とりまとめに向かうよう誘導してください。

ポイント＜復興まちづくりの提案その２＞

①図面の整理・作成は、原則参加者の自主性に委ねるが、残り時間と作業の進捗状況に応じて適宜ファシリテーターがサポートを行う。

②全体の運営管理者は、各グループの進行状況に応じてスタッフを増やすなどの補助も行う。

４．グループ発表　（50 分）PM2:30 ～ 3:20

○すべてのグループが発表します。（各グループ 5 分程度）

・リーダー等が発表（発表内容は下記事項を参考に）
①地区名
②まち歩き結果図
（まちの課題や魅力など）
③復興まちづくり提案図
（改善策、活用策など）
・他のメンバーも、補足説明があればしてください。

ポイント＜グループ発表＞

①発表の際は、復興まちづくり提案図と併せて写真をスクリーンに投影するなど聞き手にわかりやすいように配慮する。
②また発表者以外にも班員全員で補足説明等を行うことで、連帯感の形成やグループでの成果であることの意識付けなども行うことができる。
③発表するグループが多い場合は、適宜休憩を設けるなど時間調整が行えるようにしておく。（時間が余る若しくは足りない等）

５．閉会のあいさつ　（10 分）PM3:20 ～ 3:30

○地域代表あいさつ
○主催者あいさつ

ポイント＜閉会のあいさつ＞
今回のプログラムは、模擬訓練を２回に分けて行うものであるため、最終回として、最後に地域代表に挨拶していただいた。

６．閉会、アンケート　PM3:30 ～ 解散

ポイント＜アンケート＞
①前回と併せて訓練全体の振り返りと今後の参考とするため、アンケートを行った。（復興まちづくり模擬訓練に対する理解度、必要性等）
②設問数は、少なく、設問は簡単なものとする。

【まち歩き結果図のイメージ】

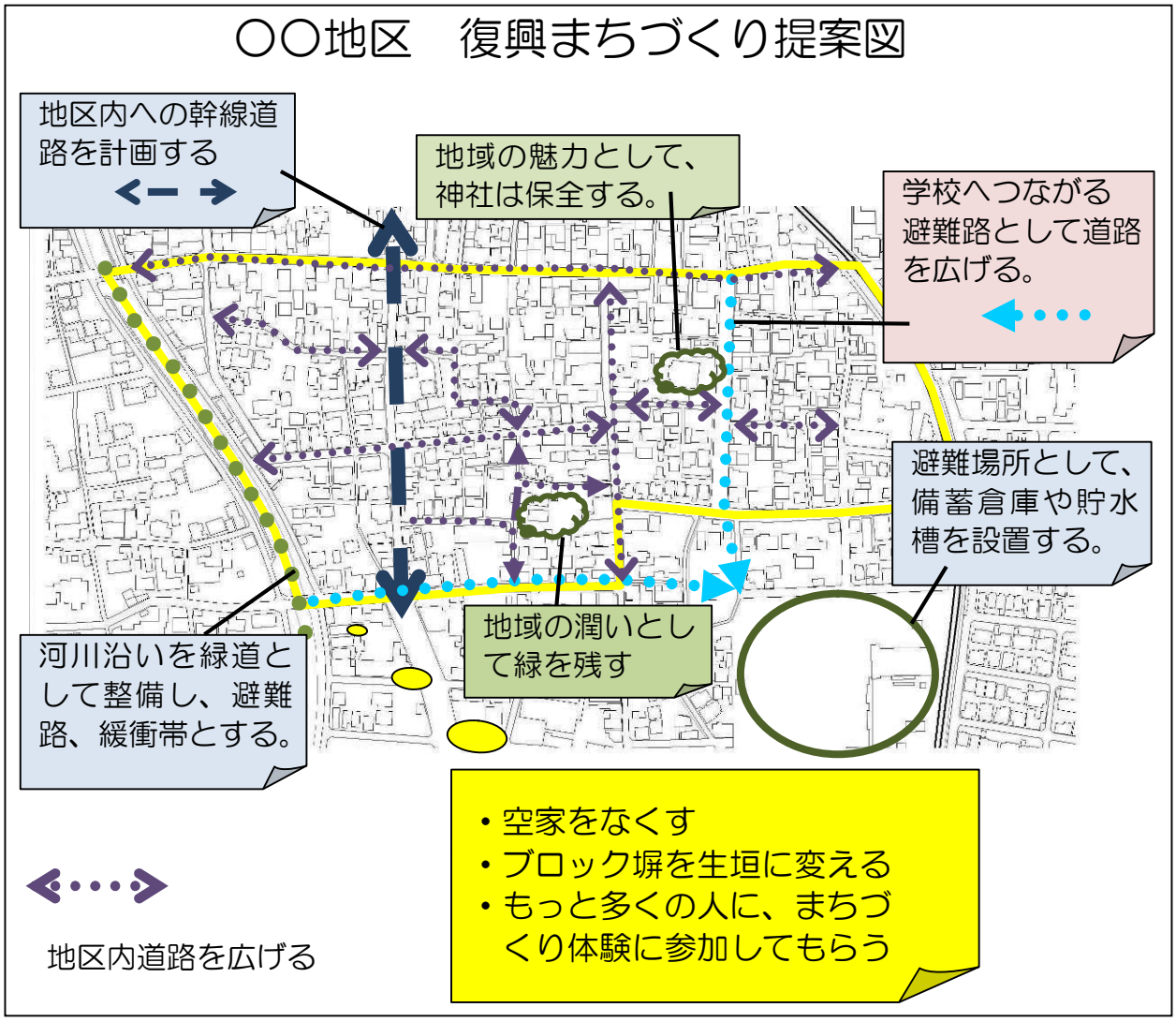
【図面の整理方法（例）】

- ピンク　危険と思われるところ
- 青色　被災時に役立つと思われるところ
- 緑色　まちの魅力
- 黄色　その他気づいた点

【分類の一例】

「建物の立地状況」　、　「避難経路や避難場所の有無」
「消火活動や救急活動」　、「まちの魅力」　など

【復興まちづくり提案図のイメージ】



【図面の整理方法（例）】

- ピンク　危険なところの改善策
- 青色　被災時に役立つ箇所・・さらなる活用の推進策なども
- 緑色　未来に残したいまちの魅力・・さらなる魅力の向上も
- 黄色　その他気づいた点（地区全体に関わるものなど）

全体として「こんなまちにしていきたい」ということを皆さんで話し合ってください。

ポイント<復興まちづくり提案図>
まち歩き結果図とふせん等の色が対応するように作成

３．模擬訓練で使用した準備資料、機材等

今回のケーススタディで使用した資料、文具、機材などを示す。なお、これらの作成や手配についての役割を明確しておく必要がある。

（各自に配布する資料等）

各自配布資料				
資料名		数量等	規格等	備考
1	プログラム	各自１	A4	―
2	ガイダンス（パワーポイント等）	〃	A4	―
3	まち歩きルート図	〃	A3 等 （/2500）	第１回に使用
4	アンケート	〃	A4	―

（各テーブル毎で使用する資料等）

各テーブル資料				
資料名		数量等	規格等	備　考
1	テーブル作業用 地形図	テーブル ２枚	A0 等 （1/1,000～ 2,500）	―
2	航空写真	テーブル毎	A3 等	―
3	都市計画道路整備状況・土地区画整理事業施行済状況	〃	A3 等	―
4	都市計画マスタープラン	〃	―	概要版等
5	都市計画総括図	〃	A0 等	―
6	地域の災害リスクを示した図面	〃	A3 等	―
7	防災マップ	〃	―	―

8	まちづくり事例集	〃	A4 等	―
9	まち歩き写真(第 1 回まち歩き時に撮影したもの)	〃	9 枚/A4 等	第 2 回に使用

（文具、機材等）

文具・機材			
文具、機材		数量等	備考
1	スクリーン	1	―
2	プロジェクター	1	―
3	パソコン	1	―
4	デジタルカメラ	テーブル毎	―
5	マイク	2～3	―
6	コンベックス	テーブル毎	第 1 回に使用
7	画板(A4)(まち歩き用)	人数分	第 1 回に使用
8	名札、用紙	人数分	―
9	付箋紙(３色程度)	テーブル毎	―
10	鉛筆、サインペン、マジック(各色)	〃	―
11	三角スケール、定規	〃	―
12	はさみ、テープ	〃	―
13	受付名簿	必要数	
14	会場案内表示等 （プログラム、会場入口案内など）	必要数	
15	各テーブル班名表示 （テーブルコーン表示）	グループ数	

（３）ケーススタディ結果

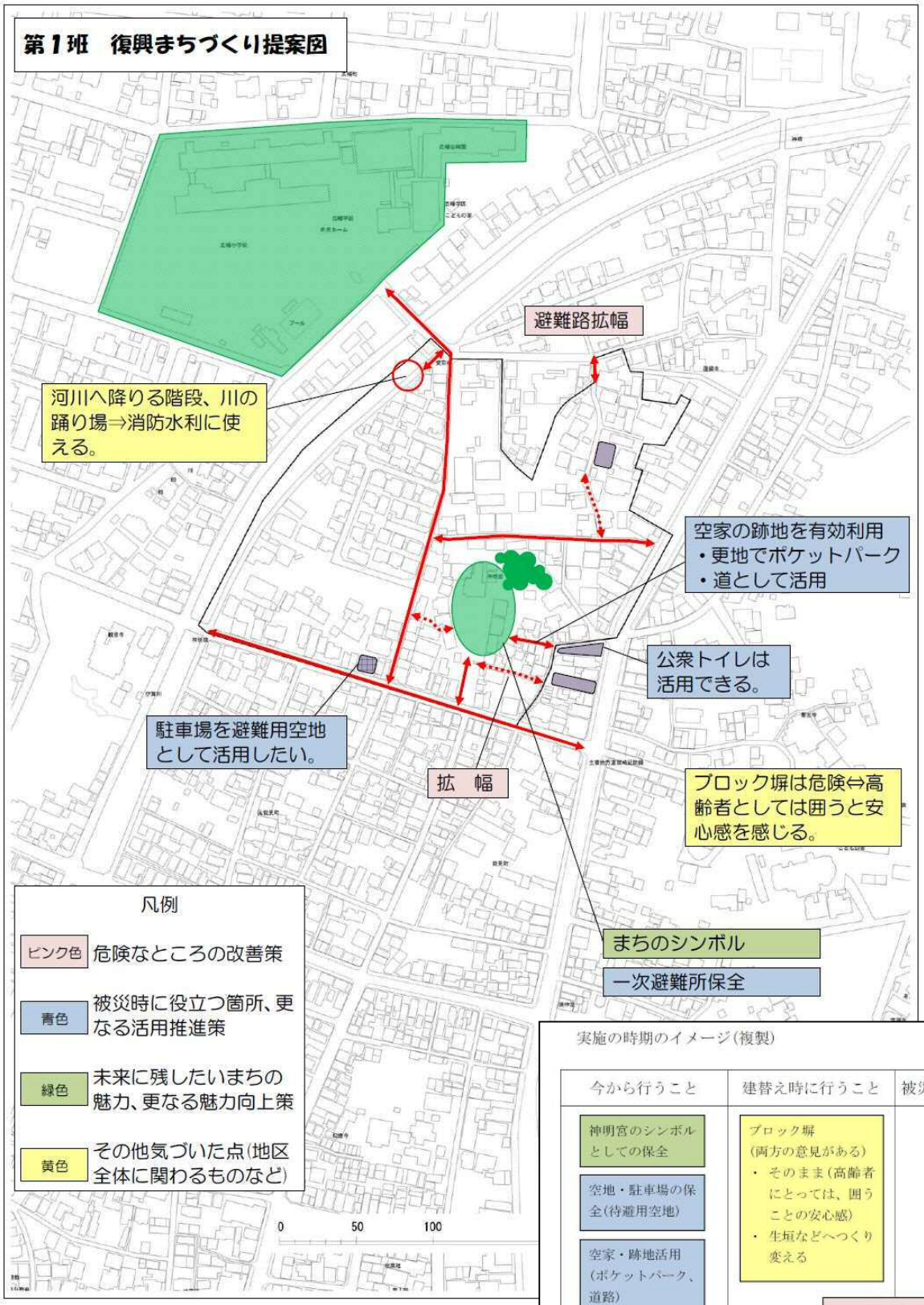
１．結果の整理（作成した図面の整理）

各班の２回の事前復興まちづくり模擬訓練で作成した「まちづくり結果図」「復興まちづくり提案図」を示す。

１）第１班

【まち歩き結果図】（複製）

【復興まちづくり提案図】（複製）



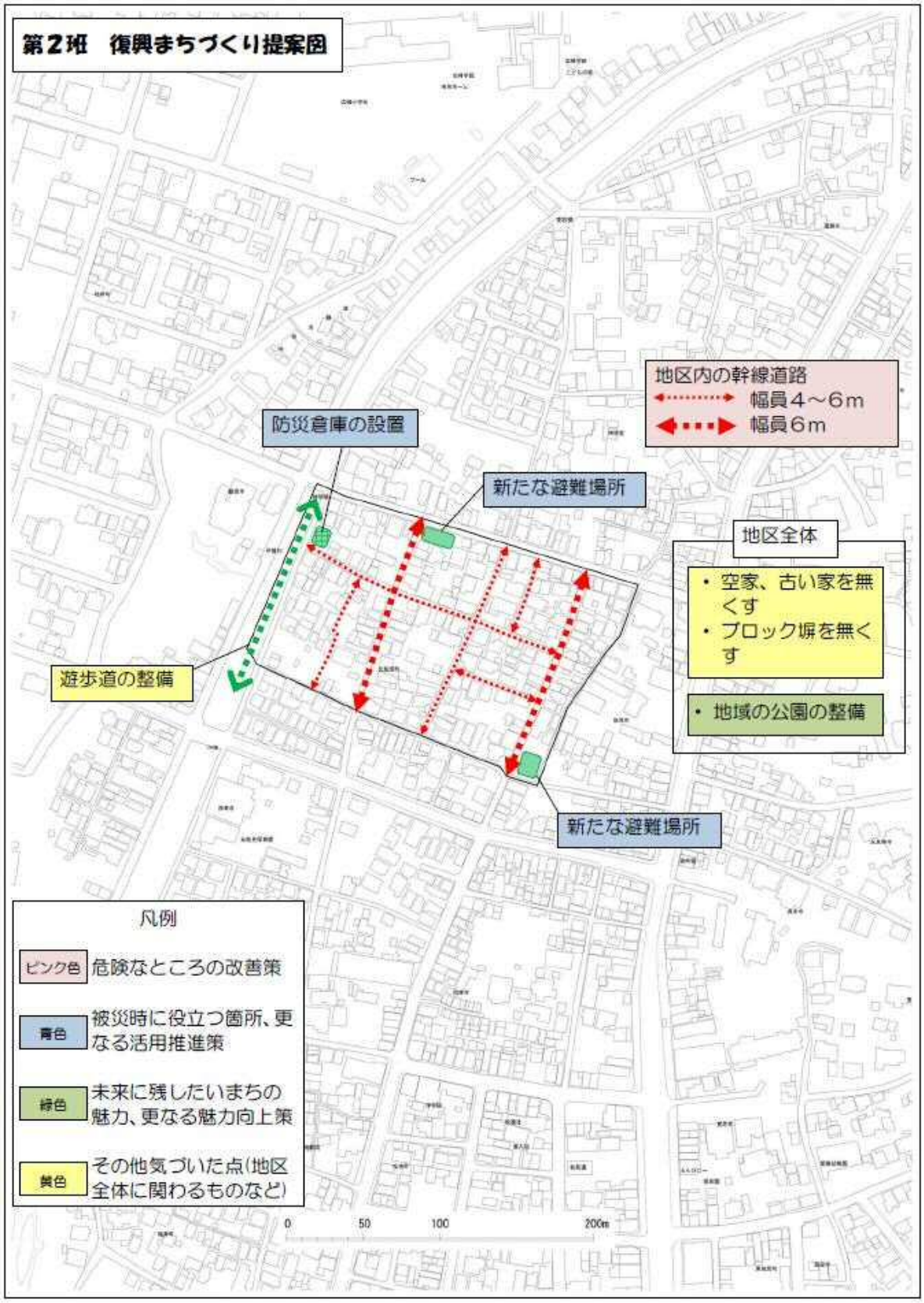
実施の時期のイメージ（複製）

今から行うこと	建替え時に行うこと	被災復興時に行うこと
神明宮のシンボルとしての保全 空地・駐車場の保全（待避用空地） 空家・跡地活用（ポケットパーク、道路） 公衆トイレの保全 河川水 消火栓が利用できない場合の活用 高齢者の方への、防災意識向上へ向けての丁寧な働きかけ	ブロック塀（両方の意見がある） ・そのまま（高齢者にとっては、囲うことの安心感） ・生垣などへつくり変える 避難路の拡幅（一時避難場所へ）	避難路の新たな整備（近隣待避所へ）

2）第２班

【まち歩き結果図】（複製）

【復興まちづくり提案図】（複製）



3）第３班

【まち歩き結果図】（複製）

【復興まちづくり提案図】（複製）

4）第４班

【まち歩き結果図】（複製）

【復興まちづくり提案図】（複製）

5）第５班

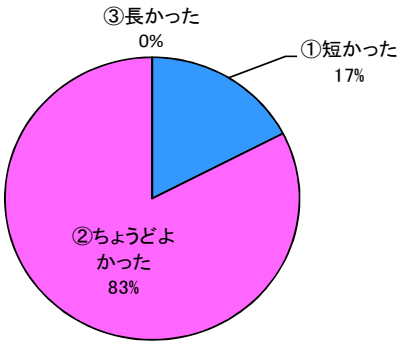
【まち歩き結果図】（複製）

【復興まちづくり提案図】（複製）

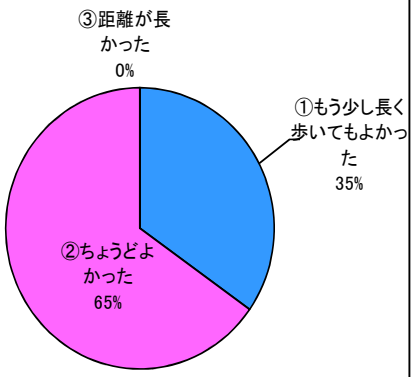
２．アンケート結果

１）第１回　まち歩き

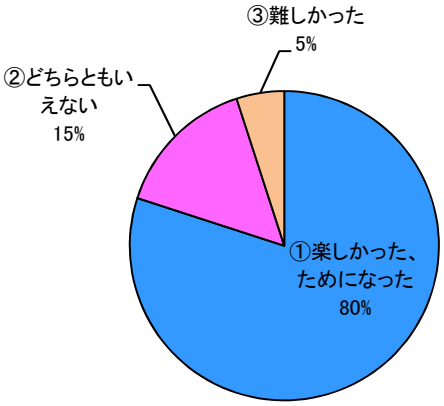
1. 全体の時間　　回答者　25名



2. まち歩きについて　　回答者　25名



3. 結果図づくり　　回答者　25名



【主な自由意見】

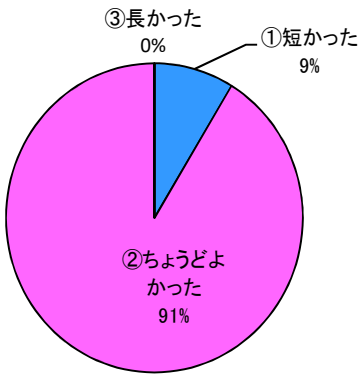
- 町内の人の共通認識がとれた、ほかの人の意見が聞けた。
- 改めて自分のまちが見れた、問題を再認識した。
- 計画を早く進めてもらいたい。

【まとめ】

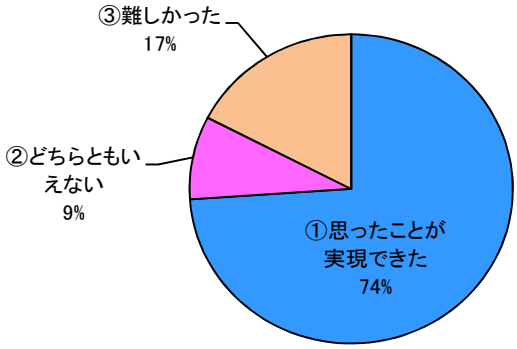
- プログラムの時間としては適正と判断できる。
- まち歩きについては、時間が短かった（もう少し歩いてもよかった）との意見もあり、今後の参考としたい。
- まち歩き結果図の作成は、概ねの人が「ためになった」としており、当日の取組み状況からも、課題認識・共有の効果は高いと評価される。

2）第２回　復興まちづくりの提案

1. 全体の時間　　回答者　23名

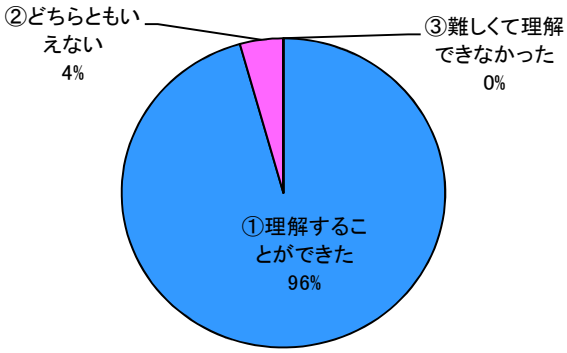


2. 復興まちづくり提案図づくり　　回答者　23名



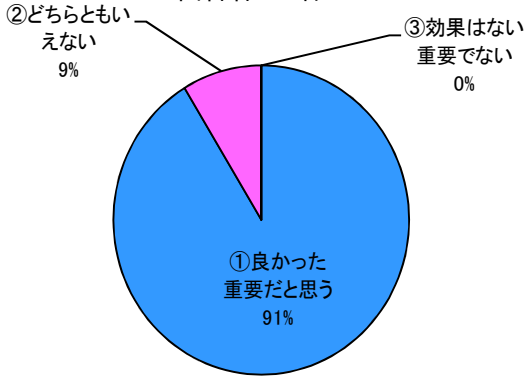
3.「事前復興まちづくり」という考え方を理解していただけましたか。

回答者　23名



4.「事前復興まちづくり」という取組を、どのように思いましたか。

回答者　23名



【主な自由意見】

- もっと提案したいことはある。
- 今後どう進めるか。じっくり取り組むことが必要。
- 今後も続けてほしい。
- 今回の課題等を町内に侵透させる必要がある。
- 自分自身の意識付けができた。
- ほかの人の意見が聞けた。コミュニケーションができた。

【まとめ】

- 「事前復興まちづくり」の考え方、必要性については、地元におおむね理解してもらえた。
- 今回の２回の体験において、防災・復興・まちづくり等について、地元の意識、関心が高まったと考えられる。
- 継続すべきの意見もあり、今回の体験の効果は高いと評価できる。

３．ケーススタディで作成した結果（図面）での意見提案の内容

① まち歩き結果図について

・ 災害時に消防車が入れなかったり、地震で建物が倒れたとき、通れなくなるような狭い道路が多い。道路沿いのブロック塀は危険。
・ 建物が道路からセットバック（敷地後退）しても電柱や標識が残っていて、車が通りにくい。
・ 接道条件から建て替えが進まず、古い家屋のままの箇所がある。
・ 古い木造の空き家が多くあり、地震時の倒壊・火災の恐れがある。防災面からも良くない。
・ 空き地、駐車場は災害時に活用出来そう。医療関係の施設が多い。
・ 神社、お寺、稲荷、古い街並みなどは、地域文化の中心であり緑も多い。地域の魅力として残したい。

② 復興まちづくり提案図について

・ 地区の主要な道路・避難路として、一定の間隔で今より広い道路が必要。
・ 公園を整備して、日常はもとより災害時の防災の拠点などに利用する。
・ 空き家の対策が必要（除却後の道路用地として活用等）
・ 災害時に河川や既存の井戸の活用。（調査、再生等が必要）
・ 社寺はまちのシンボルであり保全。そこへのアプローチや仕掛け作りも。近隣退避所としても活用する。
・ 要援護者の避難について、地域で取組が必要。（共助の取組）

（４）ケーススタディにおける課題等の整理

１．事前復興まちづくり体験（模擬訓練）の進め方について

１）地域の熟度や経緯に応じた対応

模擬訓練は、住民による議論の場の形成（きっかけづくり）や継続的なまちづくりの検討に主眼を置いている。
このため今回は、地域で既に取り組まれているまちづくりの活動や過去の経緯などを踏まえ、これらを発展させる形で模擬訓練に取り組むという視点が必要となった。

また事前復興は、従来の防災まちづくりの考え方とは異なり、被災後の速やかなまちの復興についても目標に据えているため、参加住民にとっては新たな視点でまちづくりの議論が行えるものであった。

２）地域の参加者について

今回の模擬訓練はワークショップ形式で試行的に開催したものであるため、参加者は地元役員、子供会役員、消防団など地域住民の一部に人数を絞って取り組んだが、今後のまちづくりの検討においては、様々な立場の、様々な年代の方々への参加を促していくことが肝要である。

そして地域住民とこのような活動を通して、地元の主体性の形成や組織づくりに発展していくよう考えていく必要がある。
また、模擬訓練結果を、まちづくりニュースや広報により地域に情報発信することで、今回の訓練活動を地区内すべての住民に認識してもらうとともに、地区の現状についての関心を持ってもらい、訓練へのさらなる参加を促すことも重要である。

２．今後の展開について

１）事前復興の取組の継続

今回の模擬訓練は、地域住民と行政が被災後のまちの復興について話し合うきっかけになるとして実施したが、今後も地元での事前復興まちづくりの検討を継続し、さらなる協働関係の構築を進めていくことが重要である。

そのためには今後も、まちづくりニュースやその他広報手段により模擬訓練結果を情報発信したり、地元主体でさらなるまち歩き調査(空家調査、井戸調査等)を行い、手作りマップ（地域防災マップ、井戸活用マップ等)を作成する等、地域の防災意識を涵養し、地域主導での取組に発展していくことが期待される。

また防災担当部局と連携して通常の防災訓練や公園や空き地の活用実験(炊き出し等)のイベント等と組み合わせて進めていくことも有効である。

２）復興まちづくり提案からその次へ

今回訓練で行った復興まちづくりの提案（復興まちづくり提案図）を震災後や平時のまちづくりに活用するには、より多くの住民の意見を取り入れて、実効性の高い計画に発展させていく必要がある。

そのためには、各地区での方針を全体計画として統合する、周辺地域と整合を図る、などの検討を重ねていく必要がある。なお、これらの検討は、地元住民と行政の協働体制で進めていくこととなる。